

志賀原発避難 県が複線化案

改定案で示された志賀町の避難ルート例



地震時は半数超が通行止め

避難経路が改定されるのは30*圏内の志賀、輪島、穴水、七尾、中能登、羽咋、宝達志水、かほくの8市町。国道や県道などの幹線道路を複数採用し、相互に代替するようにした。複線化には空路と海路も含む。

能登半島地震では、30*圏内の計14地区で、少なくとも154人が最長で16日間孤立。避難計画上の避難ルート11路線のうち7路線が通行止めとなった。志賀原発1・2号機は新規制基準適合性審査のため、2011年以降停止しているが、能登半島地震では2号機の変圧器が故障し、一部外部電源が使えなくなった。

富山県では氷見市北部が30*圏内に位置する。県の現行の避難計画要綱では、高岡市など県西部5市のうち、地区ごとに最も近い自治体を避難先とする。(田嶋豊、飯塚大輝)

変えても安全にはならない
東京女子大の広瀬弘忠名誉教授(災害リスク学)の話。志賀原発は、能登半島地震で重大事故につながる可能性があった。事故になれば、奥能登側の住民は逃げ切れない。避難経路見直しは相対的に安全な道を確認するに過ぎず、いくら変えても、安全にはならない。災害は複合化しており、地形的に脆弱性がある以上、再稼働を模索していたら、どこかで破綻する。本来は、逃げられないことを前提に議論しないといけない。どうやっても無理だという議論が出てこないとおかしい。

原発から北東約15*の七尾市中島町河内の坂本勝治町会長(64)は「地震と原発事故が重なったら、奥能登へ向かうのは現実的ではない。震源地や被害の大きさで避難先を複数用意するなどの対策をしてほしい」と求めた。

道路の強度、空路脱出…不安なお

石川県が、北陸電力志賀原発(同県志賀町)事故に備え、原子力災害対策重点区域(30*圏内)の8市町の避難経路を7年ぶりに見直し、改定案を示した。2024年の能登半島地震で道路が寸断されたことを踏まえ、従来の「基本経路」に加え、「代替経路」を設定したのが特徴。周辺住民は、道路の脆弱性や、空路の脱出の現実性などの疑問点を挙げ、改定案の実効性を不安視した。

「示された避難経路は現実と見合っていない」。志賀原発の北、5*圏内の予防的防護措置区域(PAZ)にある志賀町福浦港で区長を務めた能崎亮一さん(68)は、言い切る。基本

住民「ルート非現実的」

改定案で示された避難先一覧

30*圏内自治体	避難先自治体
輪島市	輪島市北部
穴水町	珠洲市
志賀町	南部 白山市 北部 能登町
七尾市	北部 金沢市 南部 津幡町
宝達志水町	金沢市
羽咋市	津幡町
中能登町	かほく市北部
かほく市	かほく市北部
氷見市	高岡など最寄り5市

経路に想定された県道48号は、能登半島地震で土砂崩れが発生。代替路の県道301号も陥没や隆起があり、車が立ち往生したことが記憶に新しいからだ。「また同じような地震が起きたら、2本とも通れなくなるのでは」と考える。

地震発生当初はどの道が使えるか分からず、実際に車を走らせながら通行可能だった。2本とも通れなくなるのでは、と考える。

能な道を探すしかなかった。「どんな状況で事故が起るかは分からない。まずは道路を強化し、確実な避難ができるようにしてほしい。その上で経路の説明がないと安心はできない」

地震時に61人が孤立したとされる輪島市門前町深見と同町六郎木からなる諸岡地区では、海岸が隆起したため船が出せず、住民は徒歩かヘリコプターで脱出した。深見の区長、角海義憲さん(74)は「最後はヘリ頼みだろうが、冬になると風が強く、なかなか着陸できないのでは」と気をむ。

言葉

どうしたら成長できるかを常に考えています

左手の指が欠けているハンディを抱えながら野球を続けている岐阜聖徳学園大の横山温大選手 12面



中日新聞北陸本社
金沢市駅西本町二丁目12番30号
〒920-8573 電話 076-261-3111

各種催事の企画・運営・演出のプランナー
株式会社 金正商事
株式会社 金(かなし)正
〒920-0061 金沢市問屋町二丁目一〇九番地四
☎(076)255-1144 FAX 255-1144

2026年 10月12日(月)
(令和8年) スポーツの日

きょうの紙面



被災漁港 熱い鼓動 11面



60周年 新鮮ずりり 9面

伝統医学で健やかに 19

ネパールまた土石流 25

耐ハイも価格調整か 25

石牟礼道子が見たものは? 6

水俣病公式確認から今年で70年。作家・石牟礼道子